

組合の薪も一役

おいしい
“倉渕メロン” ができました

未利用間伐材を有効活用

前号でもお知らせした、高崎市のメロンの水耕栽培事業。今年度からの本稼働を前に、令和五年度には試験栽培が行われ、倉渕町川浦のビニールハウスでは、まるでブドウ棚さながら、メロンが鈴なりに実りました。ここで実っているのは、いわゆるマスクメロン。表面に網目模様のある高級なメロンです。もちろん、肝心の糖度も抜群。今後、市では『倉渕メロン(仮称)』として、売り出すそうです。

多くの薪が必要になるだろうという、本組合の皮算用は見事に外れてしまうという、うれしい誤算もありました。しかし、山中に打ち捨てられ利用されることのない間伐材が、バイオマス燃料として有効に活用される契機となつた、エポックメイキングな事業でもあります。

ハウス内は、冬期でも気温十八度を保つ必要があり、加温のために導入された薪ボイラ一は、薪の燃焼時間が長く保たれるため、薪の投入は一日一回だけ。さらに、熱効率が極めて良く、薪の量も少なくて済むという優れものです。

多くの薪が必要になるだろうという、本組合の皮算用は見事に外れてしまうという、うれしい誤算もありました。

しかし、山中に打ち捨てられ利用されることのない間伐材が、バイオマス燃料として有効に活用される契機となつた、エポックメイキングな事業でもあります。

地域の特産品に

今年度からは、障がいをもつ人が栽培作業などに従事し、農業

して有名ですが、市の面積の七割が埋立地で、森林が全くありません。

小学生をはじめ多くの市民に『倉渏の森』を満喫してもらうため、昨年八月に千葉県浦安市と本組合の間で締結した協定に基づき、森を体験するための整備事業が始まつたもの。

今回の事業では、遊歩道の拡

今年度からは、障がいをもつ人が栽培作業などに従事し、農林福連携事業としての本格稼働が始まります。

ここで生産されたメロンが貯渕地域の、そして高崎市の新たな特産品に育つことでしょう。

浦安市民水源の森 森林環境譲与税

本年三月、倉渕町川浦の「浦安市民水源の森」で、本組合が浦安市から受注した整備事業が完了しました。かつては江戸川河口の漁師町であつた浦安市。今では、東京ディズニーランドのあるまちとして有名ですが、市の面積の七割が埋立地で、森林が全くありません。

小学生をはじめ多くの市民に『倉渕の森』を満喫してもらうため、昨年八月に千葉県浦安市と本組合の間で締結した協定に基づき、森を体験するための整備事業が始められたもの。今回の事業では、遊歩道の拡

幅、丸太を使ったベンチや案内標識の整備、傾斜地への木製階段の設置、眺望を確保するための伐採など、安全に散策ができるよう整備が進められました。整備のための費用は、浦安市の森林環境譲与税が充てられました。

県域を越えて、森の整備を進める、森林環境譲与税の新たな活用が始まりました。

